



6月号

令和2年6月1日
横浜市立東中田小学校
校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

共感する喜びを実感できる学校

校長 天野 直美

いよいよ学校再開となります。しかし最初の2週間は分散登校、その後一斉午前登校、給食は7月から、まだまだ以前の体制に戻りません。学習の保障につきましては、これまでご家庭でご協力いただいた学習を生かして振り返りと定着を図っていきます。なお7月の保護者面談は希望者のみ行うことといたしました。ご心配なことはいつでもどんなことでも学校にご相談ください。横浜市教育委員会が策定した「学校再開スタートプログラム」～だれもが安心して豊かに～を活用しながら、子どもたちの心身の状況を受け止めつつ進めてまいりたいと思っております。

学校行事については、7月実施予定だった4年生「上郷体験学習」と5年生「愛川体験学習」は泊を伴わない形での実施を考えております。6年生「日光修学旅行」につきましては、時期を12月に変更してできれば実現したいと考えております。10月に実施予定のスポーツフェスタの実施の有無や、実施する場合の内容や参観体制も検討中です。はっきりといたしましたら、その都度連絡をしますので、よろしくお願いいたします。

先日校長室で昼食をとっておりますと、青階段のあたりから緊急受け入れの子どもたちが掃除をしている声が聞こえてきました。様子を見に行くと、マスクをしてソーシャルディスタンスを意識しながらも、楽しそうに会話をしています。以前緊急受け入れの担当で私が教室に入った時、「今日はお掃除何時から？」と質問をされました。掃除が始まると子どもたちはとても楽しそうでした。離れて過ごさなければならぬ中、唯一子どもたちが協働作業をする時間です。今までだったら「お掃除はできれば、やりたくないけど仕方ない。」という空気が掃除の時間には流れがちではありましたが、子どもたちにとって交流し合えるこの時間が貴重な時間になったようです。

5月21日神奈川新聞に掲載された京都大学長山極寿一さんの論説「つくれるか新たな共感社会」を読みました。『コロナウィルスは人間の濃厚接触という特徴につけこんで増殖を図った。これは人類が長い進化の過程で獲得してきた社会力の源泉を根幹から揺るがすことになる。人間の共同体では日常的に顔を合わせ、冠婚葬祭などの集いを通じて触れ合い、地域文化を身体化させることが重要になる。共同体を超えて人々がつながるスポーツやコンサートなどの大きなイベントが欠かせない。でも、それらは今禁止されている3密になりかねず、ウィルスにとっては好条件となってしまふ。新型コロナウイルスを制圧した後も、私たちはもう元の状態には戻れない。そのために現代の科学技術を駆使して、接触を避ける新しいコミュニケーションを創造する必要がある。』とありました。文を読み、今回の事態は本当に人類の重大局面なのだと改めて認識しました。簡単に解決できることではありませんがその中でも互いに共感する喜びを実感できる学校にしたいです。